

# アルミ缶 リサイクル ニュース

January

1

2024

Vol. 166

CAN  
to  
CAN



アルミ缶リサイクル協会

Japan Aluminum Can Recycling Association

東京都豊島区南大塚1-2-12 日個連会館2階  
Tel.03-6228-7764 Fax.03-6228-7769 〒170-0005  
<http://www.alumi-can.or.jp>

2024年 年頭所感

2024年理事長新年挨拶

旧年中は大変お世話になりました。本年も宜しくお願いいたします。

2024年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

まず、このたびの令和6年能登半島地震において、被害を受けられた皆様へ心よりお見舞いを申し上げます。また犠牲となられた方々に哀悼の意を表するとともに、ご遺族の皆様へ心よりお悔やみを申し上げます。被災地域が一日も早く復旧を果たされ、被災された方々が通常の生活を取り戻されますことを衷心よりお祈り致します。

昨年は5月に新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したことで人々の生活・行動もほぼコロナ前に戻り、世の中に活気が戻ってきたことは大変喜ばしいことと思います。しかし一方で、世界情勢からエネルギー費が高騰し、また円安や異常気象の影響により諸物価が高騰を続けており、今年の経済動向は先行きが不透明な状況です。このような状況下、アルミ缶のリサイクル活動に携わる皆様はさまざまな工夫をなされ、堅実な活動にご尽力頂きましたことを心から感謝申し上げます。皆様の活動支援に引き続き鋭意取り組む所存でございますのでよろしくお願い致します。

環境面に目を向けますと、国内での資源循環の強化とカーボンニュートラルに向けた取り組みが引き続き重要課題となります。ご存知の通りアルミ新地金は全量を輸入に依存していますが、新地金の生産には大量のエネルギーを要し、LCAの見地からは新地金の使用を再生地金の使用へと転換することがカーボンニュートラルの推進に繋がります。日本では資源物の分別収集が進んでおり、これを国内できちんと再生利用することが上記二つの重要課題への対処に繋がります。当協会としてもこの二つの課題解決に少しでも貢献できるよう、アルミ缶の再生利用メリットを解り易くお伝えする資料を整え、リサイクル量を安定確保するとともに国内での再生利用量の拡大啓発に努めてまいり所存です。

さて昨年のアルミ缶市場は、アルコールの外飲が増えたために家飲みアルコール缶需要が減少し、また清

涼飲料缶の販売価格の値上げや酒税の改正などの影響を受け、残念ながら2%程度前年割れとなった模様です。この結果、年間需要量は210億缶程度が維持されたものの、わずかながら2年連続で前年割れになったと見込まれます。

当協会は容器包装八団体で構成する「3R推進団体連絡会」のメンバーですが、アルミ缶の3Rは2025年までにリデュース率6.0%の達成とリサイクル率92%以上の維持を目標に活動しています。2022年度の実績はリデュース率が6.1%、リサイクル率が93.9%となり、それぞれ2025年度目標を達成しましたが、これに安堵することなく引き続き更なる向上を図るべく関係各位への支援・啓発に努めてまいります。またCAN to CAN率(水平リサイクル率)につきましても、2022年度実績の70.9%を今一歩高めるよう、関係業界へ啓発を続けてまいります。

アルミ缶はその優れたリサイクル性を持つ容器として早くから皆様に認知され、回収活動は容器包装八団体の中では比較的早期に始まり、今や全回収量の約半数を集めている集団回収団体(学校、自治会、老人会、子供会、福祉施設など)、消費者、省庁、自治体、事業者のご協力もあり、リサイクル率は安定して92%以上が維持されています。関係各位には改めて深く感謝の意を表しますとともに、長年に亘るアルミ缶回収活動へのご協力に対し厚く御礼申し上げます。当協会と致しましても表彰制度や展示会、出前教育などによりアルミ缶のリサイクル活動の啓発に努めてまいりますので、引き続き皆様のご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。



アルミ缶リサイクル協会  
理事長 石原 美幸





## 3R推進団体連絡会 自主行動計画2025のフォローアップ報告

12月15日、当協会を含む容器包装の3Rを推進する八団体が纏めた「自主行動計画2025」の2022年度フォローアップの記者発表を経団連会館にて行いました。

この自主行動計画は、容器包装の3R、特にリデュース、リサイクルの推進を軸に、事業者が自主的に取り組んでいるものです。

リデュースは、軽量化・薄肉化など資源の有効活用とごみの減量化を目指す取り組みで、2022年度は8素材中5素材(ガラスびん、PETボトル、スチール缶、アルミ缶、紙製容器包装)が2025年度目標を上回って進捗しています。

リサイクルでは4素材(ガラスびん、PETボトル、プラスチック

容器包装、アルミ缶)が2025年度目標を達成するなどの成果がみられました。

また、容器包装3R推進フォーラム、セミナーの実施や地域での3R市民リーダー育成などを継続実施しました。普及・啓発としては、関係各主体との連携・協働への取り組みを深化させました。当協会からは3R実績報告と共にアルミ缶の自主的集団回収活動が活発に行われたことを報告しました。



## 2023年度(令和5年度)回収協力者表彰

### 全国各地で表彰式

当協会は、アルミ缶の回収活動を行っている団体の中から、優秀な活動実績をあげられた方々を毎年表彰しています。本年度は全国で一般 65 団体、小・中学校 43 校(受賞者の詳細は前号 Vol.165 に掲載)、10月中旬から12月にかけて全国で表彰式が開催されました。一般の部の関東地区受賞者様につきましては、11月20日に千代田区竹橋の如水会館に於いて合同表彰式が開催され、同時に本年度優秀回収拠点新規 2 社様も実施しました。

### アルミ缶一般回収協力者合同表彰式【関東地区】及び アルミ缶優秀回収拠点表彰

本年度の合同表彰式は、関東地区の受賞団体17団体様をお招きして開催致しました。表彰に先立ち理事長の石原より「2022年度のアルミ缶のリサイクル率は93.9%となり、7年連続で92%を超える実績となっております。皆様方が1缶1缶コツコツと集めていただいた缶がこのように日本の実績を作り込んでいることに改めて感謝の意を表します。」と挨拶がありました。

来賓を代表して、経済産業省 製造産業局 金属課 金属技術室長 川村 伸弥 様より「更なる資源循環と環境負荷の少ないカーボンニュートラルを実現していくためには、アルミの

回収・リサイクルの重要性は増してきます。引き続きご協力をお願いしたいと思います。」とのご挨拶を頂きました。

乾杯に先立ち、一般社団法人 日本アルミニウム協会 専務理事 能登 靖 様より「アルミニウムはリサイクルの王様でエネルギーの抑制につながるだけでなく、循環型社会の推進につながる素材です。貴重な資源を次世代また次世代につなげていけるようにこれからもご協力をお願いします。」とご挨拶を頂きました。



理事長 石原 美幸



経済産業省 金属課 金属技術室長  
川村 伸弥 様



日本アルミニウム協会 専務理事  
能登 靖 様



受賞者を代表してお二方から受賞の喜びの言葉を頂きました。



特定非営利活動法人ぶどうの会  
吉野 修平 様

吉野様より「受賞はびっくりしていて感動であり感謝であり、我々にとって自慢であり、障がい者の方々には自信になります。とても立派な活動なので改めて精進してまいります。」とお言葉を頂きました。



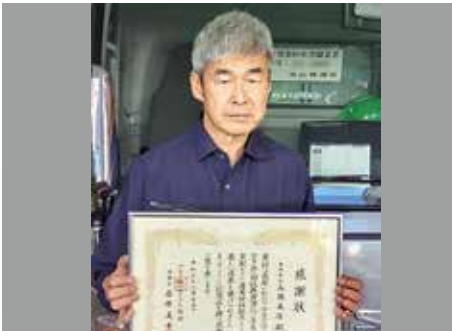
有限会社 カーショップオモテ  
表 共良 様

表様より「小学校に空き缶収集を啓発し、また障がい者が回収・プレス作業を行うことへの支援にも取り組んでいます。アルミ缶回収が北海道全土に広がるように今後とも頑張っまいります。」とお言葉を頂きました。

アルミ缶優秀回収拠点表彰

昭和58年に「優秀回収拠点制度」を設け、当協会認定の回収拠点様の中から当協会の活動に特にご尽力、ご協力下さった拠点様を表彰しています。本年度は新規受賞として 有限会社 山岡商店（神奈川県横浜市）、有限会社 カーショップオモテ（北海道釧路市）、株式会社 北原産業（山形県長井市）の3社が、再選として2017年度に受賞した 小森産業株式会社（岐阜県美濃加茂市）、同じく 2017 年度に受賞した林金属工業株式会社（長野県岡谷市）の2社が選出されました。

優秀回収拠点受賞（敬称略）



有限会社 山岡商店



有限会社 カーショップオモテ



株式会社 北原産業



小森産業 株式会社



林金属工業 株式会社





## 2023年(令和5年度)「アルミ缶小・中学校回収協力者表彰」表彰風景 (敬称略: 次号に続く)



青森市立三内中学校



青森市立三内西小学校



五所川原市立五所川原第三中学校



弘前市立常盤野小中学校



大崎市立角間川小学校



湯沢市立皆瀬小学校



長井市立長井北中学校



白鷹町立蚕桑小学校



八千代町立東中学校



小山市立大谷南小学校

## エコプロ2023出展

エコプロ2023(主催(一社)産業環境管理協会、日本経済新聞社)は12月6日~8日に東京ビッグサイトで展示会を開催されました。

来場者は、3日間で6万7千人の入場があり、当協会ブースへは約2,000人となりました。

当協会のブースでは「CAN to CAN 地球にやさしい!アルミ缶リサイクル」をテーマにパネルとリサイクルの各工程のサン

プル展示を行いました。来場された方にはクイズによるエネルギーの削減率やアルミ缶のリサイクルの現状について理解を深めていただきました。

今年はアルミ缶で作ったオブジェの他に(一社)日本アルミニウム協会様のアルミ缶アートコンテストの作品も展示し、細かな細工に興味をひかれた方もたくさんいらっしゃいました。

ご来場いただいた皆様誠に有難うございました。



エコプロ 2023 ブース風景



## 協会からのお願い

### ● タブは缶から外さずいっしょにリサイクル

アルミ缶のタブは環境保護のため、缶フタから離れないようにしてあります。タブはタブだけで回収するのではなく、缶に付けた状態で丸ごと回収してください。無理にタブを取るとケガをする場合もあり危険です。

### ● ボトル缶のキャップの取扱い

飲料用アルミボトル缶のキャップは、アルミ製です。キャップも貴重なアルミ資源です。キャップ・本体とも軽く水洗いした後、中の水分をよく切ったうえ、キャップを軽く締めて回収してください。

※自治体によってはキャップだけを別に回収しているケースがありますので、お住いの自治体の要領に従ってください。

### ● アルミ缶にタバコを入れないでください

アルミ缶にタバコの吸殻を入れると、リサイクルの妨げになるだけでなく、火災の原因になる可能性があります。



## 編集後記

- 能登地方での地震被害にあわれた方にお見舞いを申し上げますと共に、一日も早く元の生活を取り戻せますように心からお祈りしております。
- 旧年中は色々とお世話になり誠にありがとうございました。本年も宜しくお願い致します。

## アルミ缶リサイクルニュース第166号

発行日 2024年1月29日

発行人 保谷 敬三

編集人 中島 計

発行所 アルミ缶リサイクル協会